

# 「研修部」年間活動報告

人文科学研究科・教授  
西郡 仁朗

首都大学東京の発足2年目となる平成18年度は、FD委員会研修部にとっても2年目であり、昨年度の手探りの状況での活動から、現状や将来を見通した各種活動に多少は踏み出せたのではないかと思われる。これは、関係諸氏の熱心な協力で初めて可能になったものである。

以下にその活動の概要を記すが、本年度の研修部の主な活動は、FDセミナー（2回）とFD講演会であった。以下にそれぞれの内容と成果について概要を述べるが、成果に関しては、各行事で参加者に提出を求めたアンケートの反応を参考に、筆者の責任で総括したものである。なお、下記の回数はFD委員会発足からの通算数となっている。

## 平成18年度 第3回FDセミナー

FD委員会主催の第3回FDセミナーが、平成18年10月5日（木）に南大沢キャンパス6号館101室において行われた。主な内容は、京都大学でながくFD活動の推進役を務めて来られた田中毎実教授の講演と、本学今年度前期の基礎教養科目の授業評価（SE,TE）の概要報告であった。

田中先生は、京都大学高等教育研究開発推進センター長であり、京都大学の、また日本の大学FD活動全般の正しく中心的役割を果たして来られた。講演のテーマは「授業能力の向上のために」であったが、大学教育改革全般の流れと方向性が示される中で、これまでの実践的なご経験をもとに、時には具体的な授業風景の実演などを交え、また、京都大学のFD活動が根付いて行く過程での苦心談などを含めた豊富な内容であった。京都大学のFD活動は、ここ十年続いている合宿形式の全学教育シンポジウム（教員250名が参加）など、本学とは比べようもないほど進んでいるが、その過程では参加者少数の検討会などもあったとのことで、いろいろな面で本学FD委員会を鼓舞し、勇気づけてくれるものであった。

後半の基礎教養科目の授業評価（SE,TE）の概要報告では、「全学共通アンケート」については舛本直文氏（基礎教育センター）、「都市教養プログラム」金子善彦氏（都市教養学部人文社会系）、「実践英語」加藤光也氏（基礎教育センター）、「基礎ゼミナール」青塚正志氏（都市教養学部理工学系）、「情報リテラシー」永井正洋

氏（基礎教育センター）に報告をお願いし、また意見交換を行った。報告の詳細は別項（「本号第3回セミナー特集」）に譲るが、授業評価については、教員・学生ともに実施についての意識が定着して来ており、専門科目へと拡大している（以前から実施している専攻もある）。大学院を含めFD活動が義務化していく中で、授業評価は各専門分野でも当然行われるべきものとなっているが、本FD委員会がその実施のサポート役となりつつある。今後、自己点検・自己評価委員会とも連絡をとった活動の充実を望んでいきたい。

## 平成18年度 第2回FD講演会FD

11月30日（木）南大沢キャンパス6号館101室において、第2回FD講演会FDが行われた。内容は、国際基督教大学大学院、村上陽一郎教授の講演と、本学基礎教育課程に関するパネル・ディスカッションであった。

村上陽一郎先生の講演は「現代社会と教養教育」というタイトルで、欧米での大学成立とリベラルアーツ発展の歴史的経緯、日本での教養課程と専門の分化上の問題、さらに現代の日本の大学での状況などをお話していただいた。村上先生の広汎な教養に裏打ちされた内容であり、また同時に東京大学教養学部や国際基督教大学教養学部の背景事情（人間模様も含む）など、非常に興味深い内容であった。

後半のパネル・ディスカッションは2年目を迎えている首都大学東京の基礎教養課程の状況を検証する目的で企画された。パネラーは上野淳基礎教育センター長、都市教養学部人文社会系神崎繁系長、理工学系奥村次徳系長、人文社会系丹治信春教授（前東京都立大学教養部長）の4氏で、上野センター長が総括しつつ、各氏から意見が表明された。また、フロア参加諸氏との意見交換が行われた。話題が基礎教養課程全般に及んだため、時間の関係で一つ一つのテーマについての突っ込んだ議論まではできなかったが、本学の改革の流れの中での問題点を含め、参加した教員・学生が大学全体の現状に関する2年目の現状分析を共有するよい機会となったと思われる。

## 平成18年度 第4回FDセミナー

平成18年2月23日、南大沢キャンパス6号館101室において、第4回のFDセミナーが行われる。本稿を記しているのは、このセミナーを企画している時点であるので企画内容を記すに留める。

今回のテーマは「首都大生の意識・行動をもとに教育改善を考える」ことである。本年度行われた「学生の意識と行動に関する調査」及び「全学共通科目アンケート調査」の報告と、現在の学生気質やリメディアル教育に関する講演または議論を織り交ぜて授業とカリキュラム改善を目指したセミナーを開催する予定である。

以上、平成18年度に行ったFD委員会研修部の活動に

ついて述べてきた。今年度、セミナーや講演会の内容としてさまざまな案が検討された。その中で、シラバスの書き方や授業での話し方など、教員にとってきわめて具体的な技能開発研修も行いたいと考えたが、種々の都合でいまだ実施できていない。来年度以降の課題である。

研修部は伊藤正次委員（都市教養学部法学系・社会学研究科）と筆者からなるが、多くの方々の協力を得て初めてこうした活動が可能であったことを強調したい。特に、研修部のどの活動においても、FD活動に広汎な知識と経験をお持ちの上野淳FD委員会委員長及び舩本直文委員長代理が主導して活動を運営してきた。この場を借り、記して感謝したい。

## FD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会

FDは大学としての組織的な教育の改善・改革活動です。大学のアカウントビリティとして、そして適切な自己点検・評価にむけて全学的に取り組むことを目的として発足いたしました。

